

## Q 2 1 教職員と児童生徒との信頼関係づくりのポイントは何ですか。

学校における教育相談活動を効果的に進めるためには、日常の学校生活を通して児童生徒と教職員の信頼関係をつくる努力を重ねておく必要があります。信頼関係は、教職員の児童生徒に対する日頃の接し方や言動によって作り出すもので、初めから存在するわけではありません。大切にしたいことは、一人一人の児童生徒の思いや願いをきちんと受け止める姿勢をもつことです。

### 1 一人一人を大切にするための教職員の構え

#### (1) 児童生徒の心や気持ちを優先する。

日常生活のすべての場面で、児童生徒一人一人をかけがえない人格としてとらえ、教職員本位の気持ちや感情や、他の児童生徒や周囲の大人への配慮が優先されるのではなく、目の前にいる児童生徒を最優先するという姿勢に徹することが大切です



#### (2) 児童生徒をあるがままに肯定的にみる。

児童生徒には、長所もあれば短所もあります。一度の問題行動などで悪い印象をもつと、無関係な事柄も不当に悪く評価しがちになります。短所に目を奪われて児童生徒の理解を誤ることなく、どちらもありのままに的確に把握し、肯定的な見方をすればその姿勢や態度は自然に児童生徒に伝わり、教職員を信頼するようになります。

#### (3) 児童生徒一人一人に積極的な関心を持つ。

個性を尊重することは、個々に関心をもつことから始まります。話しかけ方をとっても画一的ではなく、児童生徒によって一人一人違うはずで、個としての自分を認められたと感じたとき、教職員に親しみをもち、信頼関係が生まれます。

#### (4) 自分自身の心を開き、率直な態度で児童生徒に接する。

児童生徒と教職員が親密で信頼し合える人間関係とは、両者が心を開いて安心して語り合える関係です。まず、教職員が自分の心を開いて率直に話すことが必要です。ほめる時は、率直に喜びを交えてほめ、不適切な行動の時は、ただ叱るだけでなく、悲しい気持ちを伝えることが大切です。このことから児童生徒も自分自身を語るようになり、人の心の在り方も理解する機会となります。「私は・・・と思う(感じる)。」と、「私メッセージ」を送り続けることです。

#### (5) 児童生徒一人一人に積極的にかかわる。


教職員が自分に関心をもってくれていると分かったら、自分からも教職員に近づき、親近感をもつようになります。廊下ですれ違った時には必ず声をかけたり、児童生徒の話し合いや遊びの輪の中に加わったりするなど、積極的な関わりが大切です。一人一人に対し、公平な態度で具体的にかかわっていく中で自然に信頼関係は育ちます。

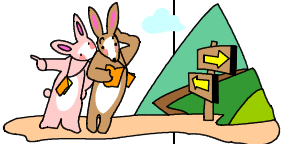


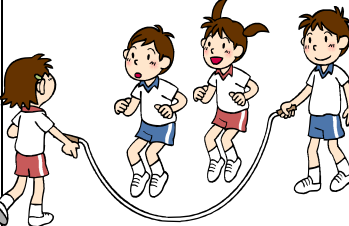
## 2 一人一人を大切にしている学級経営 = 具体的言動例 =

活動時間	一人一人を大切にしている具体的な言動	<例>
【始業前】 欠席の電話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の様子を詳しく聞き、身体の不調だけなのか、内面をさりげなくつかむ。</li> <li>・ 病名を聞いた時、症状を詳しく尋ねる。</li> <li>・ 明日の登校を促す言葉がけをする。</li> </ul>	<p>「どんな具合ですか。」</p> <p>「お大事に。」</p> <p>「明日は元気に来てください。待っていますよ。」</p>
朝の出会い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室へ行く前や朝の会終了時に、靴箱を観察する。</li> <li>・ 学級担任は教室で児童生徒を出迎え、一人一人への挨拶の後の一言も添える。</li> <li>・ 教職員からお手本となる元気なあいさつを心がける。</li> <li>・ やる気や元気を引き出す適切な温かい言葉がけをする。(目を見て)</li> <li>・ 肩をたたいたり、笑顔でうなずいたり、一人一人に応じた接し方をする。</li> </ul>	<p>「おはよう。今日も元気ですね。」</p> <p>「おはよう。早く来ましたね。」</p> <p>「今日は体育があるから楽しみですですね。」</p> <p>「さんが待っていましたよ。」</p>
教室環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒が心地よく過ごせるように、教室内の整理、整頓に心がける。</li> <li>・ 換気、照明、室温、日差し等に配慮する。</li> <li>・ 机といすは体格に合わせて調節する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花や生き物の世話・管理</li> <li>・ 黒板、掲示物</li> <li>・ 係活動へのねぎらい</li> </ul> <p>「黒板係、ありがとう。」</p>
【朝の会】 健康観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の心身の健康状態をつかむことを大切にしている。状態によっては保護者に連絡したり、養護教諭と相談したりする。</li> <li>・ 観察結果(欠席・遅刻)を表記する。 欠席状況の毎日の把握は不登校の早期発見の上でも必要である。 毎日の表情の変化をキャッチすることにより、不調状態への予防につながる。</li> <li>・ はっきりしない欠席については、慎重にチームで対応する。</li> <li>・ 学級目標の視点で具体的な行動目標を意識付ける。</li> <li>・ 昨日の反省を生かし、帰りの会への反省につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人が一言ずつ話す。</li> </ul> <p>「ハイ、元気です。」</p> <p>「少し足が痛いです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気がかりだったことを尋ね、思いを話す。</li> </ul> <p>「もう、怪我は治りましたか。」</p> <p>「今朝は元気そうで、先生はうれしいです。」</p>
【授業中】 配慮して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅刻・欠席者を確認してから始める。</li> <li>・ チャイムに遅れず授業を始める。</li> </ul>	<p>「さん、聞こえますか。」</p> <p>「さん、聞く準備はよい</p>

始める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声の大きさやトーンを確認する。</li> <li>・児童生徒に視線を合わせ、一人一人に語りかけるように話す。</li> </ul>	ですか。」
ねらいを明確にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の学習のねらいを明確にする。</li> <li>・学習課題がすべての児童生徒に理解されているか確認する。</li> <li>・学習の流れが児童生徒に分かり、見通しがもてる。</li> <li>・前時までと結び付けて、学習課題を自覚させる。(できるだけ視覚的に。)</li> </ul>	<p>「この時間は、何を学習するのですか。」</p> <p>「さん、今日はどこまでできればよいのですか。」</p>
学習のルールを大切に	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムで席に着く、教科書・ノート・筆記用具の準備、机上の整理、私語や手遊びはしない等学習時のルールは確実に守らせる。</li> <li>・欠席者への配慮をする。(机が物置になっていないか。プリント類は確実に配布されているか。)</li> </ul>	<p>「忘れ物はないですか。」</p> <p>「ノートや教科書を忘れた人は借りに来なさい。」</p>
模範を示す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が間違えたときは、ごまかしたり、言い訳をしたりせずに、理由を説明する。</li> <li>・児童生徒の作品等を模範とする時は、本人の承諾を得る。</li> </ul>	<p>「ごめんなさい。先生も調べてきます。」</p> <p>「みんなに紹介してもよいですか？」</p>
教材・教具を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が意欲的になるように、教材・教具を工夫し、準備する。</li> <li>・提示の仕方を工夫する。</li> <li>・一人一人に渡すものについては、どの子にも行き渡るか確認をする。</li> <li>・児童生徒にとって使用しやすいことを優先に考える。</li> </ul>	「・・・は使いやすいですか。」
発問する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問内容を十分吟味する。</li> <li>・全員を見渡して、タイミングよく発問する。</li> <li>・発問後、十分考える時間を取る。</li> <li>・一人一人に応じた発問をする。</li> <li>・手が拳がらない子の側にいき、自ら意見がもてるように声をかける。</li> </ul>	<p>「少し難しいですから、分からないことがあったら聞いてくださいね。」</p> <p>「もう少し考えましょうか。」</p> <p>「今は考えているところですね。」</p> <p>「これはさんが答えてくださいね。」</p>

<p>指名する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい名前で指名する。呼び捨てをしない。</li> <li>・指名されたら「はい」と返事ができるようにする。</li> <li>・「分かる人」「できる人」だけに挙手を求めない。</li> <li>・指名を嫌がるサインに気付き、無理に指名しない。(目を伏せる、手の上がり具合等)</li> <li>・安易にまわし発言をしない。</li> </ul>	<p>「さん、準備はよいですか。」</p> <p>「もう少しで、できる人がいるから待ちましょう。」</p> <p>「さんの意見を聞きながら考えましょう。」</p>
<p>発言を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤った答えをすぐに否定したり、すぐに「他に」と言って他の意見を求めたりしない。</li> <li>・誤った考えであっても冷やかすことのない仲間作りにつとめ、間違いから学ぶ工夫をする。</li> <li>・適切な答えでなくとも最後まで聞く。</li> <li>・沈黙の時間があつたときには、沈黙の意味を考え、さりげなく促す。</li> </ul>	<p>「～と考えたわけだね。」</p> <p>「～のところをもう少し考えるとよいですね。」</p> <p>「もう少し考える時間が必要ですか？」</p> 
<p>聞く・話すの姿勢づくりを徹底する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な言葉遣いで話す。</li> <li>・ハンドサイン等を利用し、友達の意見につないで話すことを意識させる。</li> <li>・自分の立場を明確にして話をさせる。(賛成・反対・付け足し・他に 等)</li> <li>・友達の反応を確かめながら話をさせる。</li> <li>・順序や根拠を明らかにして話をさせる。</li> <li>・発言者の方を見ながら、友達の発言にうなづく等反応して聞くよう促す。</li> </ul>	<p>「さんの意見について、どう思いますか。」</p> <p>「そう考えた理由も言えてすばらしいですね。」</p> <p>「さんの聞き方がとてもよいですね。」</p> <p>「さんを大切にしている聞き方ですね。」</p> <p>「さんの考えにつなげて話せたね」</p>
<p>対話を増やす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒同士の自然な声かけ等のやりとりを大切にする。</li> <li>・教職員と何でも言える授業の雰囲気をつくる。</li> <li>・ペア活動や班活動において、孤立する児童生徒に配慮する。</li> </ul>	<p>「その二人の話をもう少し聞かせてください。」</p> <p>「先生もそう思いますよ。」</p> <p>「さん、みんなで話し合ってください。」</p>
<p>評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のよい点を積極的に見出す。</li> <li>・結果のみを重視することなく、学習過程での努力や小さな進歩をほめる。</li> </ul>	<p>「アイデアがよいですね。」</p> <p>「～のときに、～を努力していましたね。」</p>

<p>注意する</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非なる行為は「事実」を指摘し、注意する。</li> <li>・注意を引くための行動と分かっているても、関心を示す。</li> <li>・責任追及より、責任のとり方を考えさせる。</li> </ul>	<p>「さん、間違っていますよ。」</p> <p>「さん、後で話し合しましょうね。」</p> <p>「どうしたらよいと思えますか？」</p>
<p>観察する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょっとしたつぶやきを大切にし、取り上げる。</li> <li>・座席表を使った観察記録等を生かして、気になる児童生徒は個別指導につなげる。</li> <li>・しぐさや表情にも気を配り、言葉をかける。</li> <li>・児童生徒同士の関係に目を向ける。</li> </ul>	<p>「さんの考えを聞きたいです。」</p> <p>「昼休みに時間が取れますか？」</p> <p>「さん、熱がありそうですね？」</p> <p>「さんと力を合わせてがんばったね。」</p>
<p>振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時にごんばったことや学んだことをノートや振り返り表にきちんと残す。</li> <li>・考えがきちんと書かれた丁寧なノートは大切な学習の足跡であり、宝物であると意識付ける。</li> </ul>	<p>「ここをこんなふうにごんばれましたね。」</p> <p>「今日の宝物は何ですか。」</p>
<p>意図的に 机間指導 をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な個別指導の時間ととらえ、計画的に丁寧に児童生徒とやり取りをする。</li> <li>・児童生徒の目の高さで語りかけ、個の考えを価値付ける。</li> </ul>	<p>「その考えはとてもよいですね。」</p> <p>「ここはもう少し考えるといいですよ。」</p>
<p>板書を工夫 する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの位置からも見やすく、理解しやすい板書をする。見やすい色のチョークで書く。</li> <li>・児童生徒のノート作りのお手本となるように、色遣いや構成等を工夫する。</li> <li>・フラッシュカード等を効果的に用いる。</li> </ul>	<p>「さん、見えますか。」</p> <p>「ポイントにはこのように赤線を入れましょう。」</p>
<p>【休み時間】 遊びを通して ふれあう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と一緒に遊ぶことにより、児童生徒は教職員に親しみをもち、心のつながりを感じるので、できるだけ時間を作り遊ぶ。</li> <li>・学級遊びを必要に応じて計画させ、学級全員が一体となって遊べる機会をつくる。</li> <li>・精神的開放の時間であることを十分心得て対応する。</li> <li>・遊びの中ではありのままの自己を主張し、自己表現ができるので、全員が十分声を出</li> </ul>	<p>「先生も入れてくださいね。」</p> <p>「みんな、一緒に遊びましょう。」</p> <p>「今日の遊びの紹介をしてください。」</p> <p>「さん、楽しそうですね。」</p> <p>「さん、上手ですね。」</p>

	<p>せるように配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中で起こるトラブルは、その場で解決し、持ち越さない。</li> <li>・ひとりぼっちでいる子はいないか、特別教室などで一人で過ごしていないかなど心配りをする。</li> </ul> <p>児童生徒は遊びを通して、身体的にも精神的にも成長や発達をする。</p> <p>休み時間を保証する。授業延長や係の打ち合わせなどでいっぱいにならないようにする。</p> <p>不適応行動を示す児童生徒にとっては、遊びが心の傷を癒し、行動の安定を促す治療的な働きもある。</p> <p>遊びの中に児童生徒の自発性、創造性、協調性などが表れるため、教職員と一緒に遊びながら児童生徒を理解することができる。</p>	
<p>たわいない会話を楽しむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に関係のない会話を教職員とすることにより、興味・関心が分かり、児童生徒理解が深まる。(飼っている犬の名前・家族の話等)</li> <li>・教職員を身近に感じてくれるチャンスなので、気になる児童生徒には積極的に話しかける。</li> <li>・黙って傍らに来る児童生徒に心を配る。</li> <li>・教職員の失敗談を話す。</li> </ul>	<p>「家でもそうしているの？」</p> <p>「どんなテレビを見ていますか。」</p> <p>「さん、～についてどう思いますか。」</p> <p>「おばあちゃんはお元気ですか。」</p>
<p>【共に汗する体験】 清掃、飼育、栽培、木工等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と共に汗を流すことで、親しみや信頼が生まれるので、積極的に誘う。</li> </ul> <p>作業や身体を使って働く体験は、児童の人格形成や意欲に大きな影響を与える。</p> <p>児童生徒の成就感には計り知れない大きなものがある。</p> <p>不適応行動を示す児童生徒も心を開き、立ち直りへの意欲をもつ契機となる。</p>	<p>「さん、一緒に・・を作りましょう。」</p> <p>「気持ちのよい汗をかきましたね。」</p> <p>「ウサギも喜んでいますよ。」</p>
<p>【帰りの会】 よさを価値付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナー化しないように工夫し、今日の一人一人の活躍を学級目標と照らし合わせて価値付け、明日につながる帰りの会にする。</li> <li>・学級集団の歩みがよい方向に進んでいるのはだれのどのような働きがあったからかを示すことで、一人一人を学級に位置付ける。</li> <li>・児童生徒が活躍できる場面を多く作り出す。</li> <li>・児童生徒同士を比較しない。</li> </ul>	<p>「さんのおかげで、・・・が成功しましたね。」</p> <p>「・・のとき、どうすればよかったのでしょうか。」</p> <p>「明日も元気で登校しましょうね。」</p> <p>・握手をしたり、じゃんけんをしたりしながら見送る。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や個人の成果や課題は何なのか等をきちんととらえる。</li> </ul> <p>学級の中で、学級担任や級友に認められ、ほめられると、児童生徒の自己肯定感の高まりに結びつく。</p>	
【放課後】 個別指導 を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からなかった児童生徒や、課題がもてていない児童生徒に時間を与え、指導する。</li> <li>・他の人への迷惑行為等問題行動について、きちんと指導する。</li> </ul>	<p>「どこが分からなかったですか。」</p> <p>「一緒に勉強しましょう。」</p> <p>「次回からどうしますか。」</p>
答案や作品 の処理を する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の提出物や作品は大切に扱い、丁寧に点検し、励ましの言葉を添える。</li> <li>・筆圧、文字の大きさ等からサインを読み取る。</li> </ul>	<p>「・・・の色が特にすばらしいです。」</p> <p>「先生もうれしいです。」</p>
教室環境を 整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席者の机の中を見て、配布物などが入ったままになっていないか確認する。</li> <li>・余分な画鋏や釘、古い掲示物、掲示物の破れやゆがみ、落書き等がないか気を配る。</li> <li>・机や椅子は体に合わせて調節する。</li> </ul>	
通信を発行 する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品、感想、授業評価等を掲載した心の通う温かい通信を発行する。</li> <li>・がんばりの紹介等において、特定の児童生徒に偏ることがなく、クラス全員が交代で掲載されるよう配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さんのがんばりを紹介</li> <li>・ がんばりの価値を紹介</li> </ul>